「第３次たつの市子どもの読書活動推進計画（素案）」【概要版】

≪第２次計画からの変更点・充実させる内容≫

【第１章及び第２章】

項目	第２次計画（実績を含む）	第３次計画（素案）
計画の基本方針	**「ひとづくりへの挑戦」** ・子どもの読書活動を支える環境の整備と充実 ・読書活動の推進に向けた家庭、地域、学校園、図書館の連携・協力 ・子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発（第２次たつの市総合計画より）	**「読むよろこび、知るたのしさ、つながる未来」** ・子どもの読書活動を支える環境の整備と充実 ・読書活動の推進に向けた家庭、地域、学校園、図書館の連携・協力 ・子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発（第３次たつの市総合計画より）
上位計画との整合	第２次たつの市総合計画（後期基本計画）に基づく。	第３次たつの市総合計画、第４次たつの市教育大綱、第４次たつの市教育振興基本計画との整合を図る。
社会環境の捉え方	少子高齢化・人口減少、グローバル化、気候変動、SDGs、ICT、新型コロナ。	人口減少、感染症拡大を契機としたデジタル化、ICT・AI・DX、情報通信機器・動画・ゲーム等の普及、子どもの生活時間の多様化、子どもの家庭環境の変化。
読書活動の意義・根拠	子どもの読書活動の意義を説明。	東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所が共同実施した７年間の追跡調査（2015～2022 年）を新たに引用。就学前に週４日以上読み聞かせを受けた子どもは、その後の読書時間が 1.5～２倍長い傾向等を示し、乳幼児期の読み聞かせの重要性を強調。
家庭の役割・支援	家族全員が読書に親しむ環境づくり、保護者の理解を深める情報提供を重視。	共働き家庭の増加やデジタル化により家庭で読書時間を確保しにくい状況を踏まえ、家庭で実践しやすい読み聞かせ・読書習

項目	第２次計画（実績を含む）	第３次計画（素案）
		慣の定着支援を重視。
読書支援のイメージ	家庭や各関係機関で行う読書支援の内容を記載。	家庭や各関係機関で行う読書支援の内容を、子どもの発達段階に沿って記載。

【第３章の４　市立図書館における子どもの読書活動の推進】

項目		第２次計画（実績を含む）	第３次計画（素案）
図書館の新たな取組		図書館の取組を分野別に記載。	重要な取組8項目を第3章の4冒頭に明示。 ① 図書館職員が選んだ「絵本セット」の貸出し ② 親子で参加しやすいイベントの充実 ③ 子どもの学び、調べる力を図書館で育む ④ 「夏休み推薦図書リスト」の電子化 ⑤ 中高生向け「YA コーナー」の充実 ⑥ 関係機関と図書館をつなぐ支援の充実 ⑦ 市内全小学校への読書支援体制の整備 ⑧ SNS 等を活用した広報の充実
乳児期	「はじめましてえほん」事業について		市立保育所・こども園未就学児保護者に向けた「子どもの読書活動に関するアンケート」で「はじめましてえほん」事業についての質問を新設した。結果、「はじめましてえほん」をきっかけに図書館に足を運んだとの回答が半数近くあり、多くの保護者が今後も必要であると考えていることが分かった。
乳児期	絵本セット貸出し		職員が選んだ絵本セットを貸し出し、保護者の選書負担を軽減し、家庭での読み聞かせと子どもの乳幼

項目		第２次計画（実績を含む）	第３次計画（素案）
幼児期			児期からの継続的な来館につなげる取組として追加。
幼児期	こども園、保育所への支援	移動図書館、園所訪問、読み聞かせを実施。	従来の支援を継続しつつ、園所教員を対象に読書支援に関する研修を開催し、園所との連携を強化。
乳児期 幼児期 学童期	子育て関連機関・放課後児童クラブへの支援	「はじめましてえほん」事業、広場での読み聞かせ・講演、児童クラブへの移動図書館・読み聞かせ等を実施。	読書支援に関する研修や夏休み期間の移動図書館等、支援内容を整理。
学童期	小学校への支援	団体貸出し、学校訪問、担当教諭への利用案内・研修（揖龍図書部会）	読書支援に関する研修を開催し、学校図書館の運営に役立つ情報を共有するほか、既存の学校訪問に加え、図書館職員が学校図書館を訪問し、配架･選書等について助言するなど読書指導支援を行う。上記の支援強化に伴い、現在の図書館ごとに異なる支援内容･対応を平準化し、全小学校への継続的支援体制を整備。
学童期 青年期	小学校・中学校への支援	夏休み推薦図書リストを作成し、紙媒体で配付。	夏休み推薦図書リストの内容を更新するとともに、利便性向上のため電子媒体での配付を検討。
青年期	中学校・高校への支援	要望に応じて団体貸出を実施できるように連携を図る。中学校への学校訪問が実施できるように図書館職員の体制を整え、必要な図書を揃える。	電子図書館の利用方法の周知･運用を推進し、読書支援に関する研修を開催することで担当教諭･図書委員との連携や、ビブリオバトルの啓発を行う。

項目		第２次計画（実績を含む）	第３次計画（素案）
		（実績：中学校への電子図書館 ID 発行等を含む支援を実施。）	
青年期	YA コーナー	中高生向け YA（ヤングアダルト）コーナーの設置・充実を目指す。	蔵書･選書基準を見直し、中高生の利用が多い学びのスペースに中高生向け展示を設置し、学習･進路に役立つ本を紹介する。
青年期	特別な支援を必要とする子どものための資料	点字図書・LL ブック・電子書籍等の収集・提供。	従来の資料収集･提供を継続しつつ、利用促進の周知･啓発や、電子図書館の読み上げ機能付き資料の周知を進める。
乳児期 幼児期 学童期 青年期	図書館イベント	「おはなしのじかん」「えほんのじかん」「一日図書館員」など、定期的に継続して行っている行事のほか、絵本原画巡回展や人形劇、絵本クイズなどのイベントについても随時企画し、開催。	定例行事である「おはなしのじかん」「えほんのじかん」の頻度や対象年齢の平準化を行う。また、図書館で調べ方を学ぶツアーや学びを得られる企画、長期的なイベントなど、いつ来館しても楽しめる図書館づくりを重視する。さらに、子どもが主体的に参加できる新しい展示方法や子どもが自らの好きな本を紹介する機会の充実を図る。
ボランティアへの支援		活動状況の把握、ボランティアの発掘・育成、絵本選びや読み方の助言等を掲げる。	訪問先・活動内容を把握できていない団体や発掘が十分でない状況を課題化。研修会等への案内を通じ、読書支援に関する共通理解を図る。
広報		市広報や図書館報、ホームページ、チラシなどで行事・イベントのＰＲを行っている。（実績：LINE・Instagram 等による PR）	既存の SNS 活用を強化し、動画等を用いてイベントや本の魅力を子ども・保護者に分かりやすく発信する。